

稲城市教育研究奨励校 1年次研究のまとめ

令和6年度研究主題

「**児童が特性を味わいながらすすんで運動に取り組む体育学習**
 ～互いに授業を見合い・語り合うことによる授業改善を通して～」

1 研究主題の理由

本校では、昨年度取り組んだ「キャリア教育」において、「キャリア教育の身に付けさせたい力を具体的にし、適切に価値付けていくことで、児童に変容が見られた。」という成果があった。一方で、「教科とキャリア教育の観点をリンクさせることに難しさがある。教科のねらいを中心に、キャリア教育の観点でも児童の様子を見取る必要がある。」という課題も見つかった。そこで、今年度はキャリア教育との親和性が高いと考える「体育」に教科を絞って研究を進めていくことにした。

本校では、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育に基づき、研究主題にある「特性」を各種運動を通して得られる「楽しさや喜び」と捉えて研究を進めた。児童が体育の授業において運動の楽しさや喜びを感じることが、運動好きな児童が増えたり、児童の体力が向上したりすることにつながる。またそれが、体育科の目標でもある「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成」につながると考えた。

さらに、児童に運動の楽しさや喜びを味わわせるには、教員一人一人がその運動の特性を理解し、指導することが大切であると考え、互いの授業を見合い・語り合うことを基に授業改善を図るため、上記の研究主題を設定した。

2 研究の経過

4月 9日（火）	・校内研究全体会～今年度の研究について～ 分科会編成
5月15日（水）	・研究の方針を考える 提案・話題提供授業 第5学年 器械運動 ・提案授業を受けて研究主題の検討 研究組織編制及び授業者決定
5月22日（水）	・基調講演 「今年度の研究の方向性について」 東京都教育委員会 美越 英宣 主任指導主事
7月 3日（水）	・授業研究① 第4学年 ゲーム 講師：美越 英宣 主任指導主事
8月29日（木）	・授業研究に向けた分科会、特性シートの作成、単元計画の作成
11月20日（水）	・授業研究② 第1学年 ゲーム 講師：美越 英宣 主任指導主事
12月23日（月）	・研究のまとめ（成果と課題） 実技研修 次年度に向けての調査
1月27日（月）	・授業研究③ 第5学年 器械運動 講師：美越 英宣 主任指導主事
2月12日（水）	・研究の振り返り・まとめ 研究主題の確認 次年度に向けての見直しをもつ

※他に各分科会での授業案検討、事前授業の実施による児童の様子の共有や授業案のブレスト

3 研究内容

(1) ちょこっと参観

教科関係なく各担任、専科教員が授業公開をする。予定表に公開予定の授業の教科や単元名を記入し、参観できる教員が気軽に参観できる文化をつくる。参観時には学びシート（授業メモ用紙）を活用し、参観した授業について授業者にフィードバックが行えるようにした。また、学年間・学年外の児童の普段の学習の様子を見ることができ、様々な学年の児童理解ができた。全教員で全児童を育てる意識の向上につながった。

ちょこっと参観

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6			読心術 らー！英語 物語文		

事前の予約不要！
出入り自由！
走行は10分から！

/ (月) ~ / (金)

(2) 授業交流会

年間3回の授業研究の他に、全担任・専科教員が体育（音楽・図工・算数）の授業の指導案を作成し、ミニ授業研究を行った。参観できる教員で授業者の授業を参観し、放課後には振り返りを含めた協議会を行い体育授業のことを話題に意見を言い合った。



(3) 「七小スタンダード」「七小のマネジメント」「七小授業ガイドライン」の理解

・「七小スタンダード」

七小の体育授業で統一して指導する内容を示し、意識して授業を行った。

・「七小のマネジメント」

運動量の確保、安全で楽しい授業が行えるように授業での教師の行動をまとめた。

・「七小授業づくりガイドライン」

体育の授業の「導入・展開・終末」において大切なことをまとめ、授業づくりをし易くした。

体育

授業づくりガイドライン (B5)

高学年(5・6年)	中学年(4年)	低学年(1・2年)
高学年(5・6年) 運動量の確保、安全で楽しい授業が行えるように授業での教師の行動をまとめた。	中学年(4年) 運動量の確保、安全で楽しい授業が行えるように授業での教師の行動をまとめた。	低学年(1・2年) 運動量の確保、安全で楽しい授業が行えるように授業での教師の行動をまとめた。

<実践事例1> 小学校第4学年 領域：ゲーム「キャッチバレー」

【手立て】

- 1 単元計画の工夫
- 2 教師の提示した「作戦」を選ぶ。
- 3 1時間の中で2回「振り返りの時間」を設定する。

【成果】

- ・教師が特性を理解することで、授業の質を高めることにつながった。
 - 授業の前に「教えること・引き出すこと」を区別して考えることができた。
 - 児童が選ぶ作戦を考えておくことができた。



- ・ゲーム領域における単元の大まかな流れが分かった。
→規則を知る・工夫する、動き方を知る、作戦を選ぶ
→1時間の中で2回の振り返りの時間を設ける。



【課題】

- ・他領域の単元の流れについてさらに学ぶ必要がある。
→「教えること・考えさせること」を知りたい。
- ・児童が自分たちに合った作戦を適切に選ぶことができるようにしたい。
- ・基本的なボール操作など、様々な指導方法を知りたい。

<実践事例2> 小学校第1学年 領域：ゲーム 鬼遊び「宝運び鬼」

【手立て】

- 1 単元計画の工夫
- 2 教師の提示した「攻め方」を選ばせる。
- 3 操作しやすい用具の考案



【成果】

- ・コートが目印、道具の準備を分科会でを行い、共有できたことがよかった。
- ・作戦を選ばせるためのカードがよかった。
- ・ルールに従って運動することを身に付けることができた。
- ・動画の活用は有効だった。「攻め方」を俯瞰して見ることができた。



【課題】

- ・準備が多く、片付けにも時間がかかる。今後マット運動など他の領域でも準備も片付けもしやすくすること。
→使わない作戦もあった。事前に指導があった通り、3つ程度で丁度よいことが分かった。
- ・「勝敗を受け入れる」ことの指導が難しい。
(講師の先生の指導が意図していたのは「勝ったら喜ぶ」「負けたら(悔しくても)相手を称える」ことが正しい行動で、この態度を身に付けておくことが大切、ということ。)

<実践事例3> 小学校第5学年 領域：器械運動(跳び箱運動)

【手立て】

- 1 課題解決を繰り返し行う単元計画を設定する
- 2 導入の工夫
- 3 児童同士が豊かな関わり合いができるようにするための工夫



【成果】

- ・技能異質グループで活動することで、教え合いが活発になった。
- ・導入時に音楽をかけ、マネジメントを行うことで運動量の確保につながった。
- ・毎回の活動を同じにすることで、児童が見通しをもって活動できた。
- ・ホワイトボードを活用したことで、視覚的な理解を促すことができた。
- ・分科会内で事前、事後の授業を行ったことで授業がレベルアップした。

【課題】

- ・学校共通の安全に関する指導事項がいま一つだった。
- ・学校で共通のオノマトペがあるとよかった。
- ・2学年にわたる指導計画の整理が必要。
- ・台上前転の指導内容に、「回転」を入れるとよかった。
- ・音源の音量が大きすぎて、指導言が聞こえないことがあった。



4 今年度の研究のまとめ

【成果】

- ・教師による運動の特性の理解が、授業づくりの柱になることが分かった。
- ・授業を見合い・語り合う雰囲気が出た。
- ・分科会で学年を越えて一緒に授業づくりをするよさを感じられた。
- ・授業についての会話が増加した。
- ・ゲーム領域・器械運動領域の特性の理解が深まった。

【課題】

- ・「ちょこっと参観」の活性化
- ・協議会の在り方の再考
- ・よい授業をやりやすくする環境面・用具面の整備
- ・さらなる特性の理解
- ・系統性の理解（それぞれの運動がどのようにつながっているか）

5 次年度に向けて

- ・研究主題の実現に向けて、3つの資質・能力のどれを重点とした主題なのかを教師が十分に理解し、授業研究を行う際には、それぞれの手立てをその資質・能力にあったものを考える必要がある。
- ・体育の授業と研究内容の重なりが大きくなるように、次年度以降の研究主題を設定していく。
- ・研究主題の捉えとなる研究仮説を考えてから研究を進めるようにする。
- ・運動の楽しさや喜びにあたる、特性の理解をさらに深めていく。
- ・研究の手立てを精選し、3つまでにする。